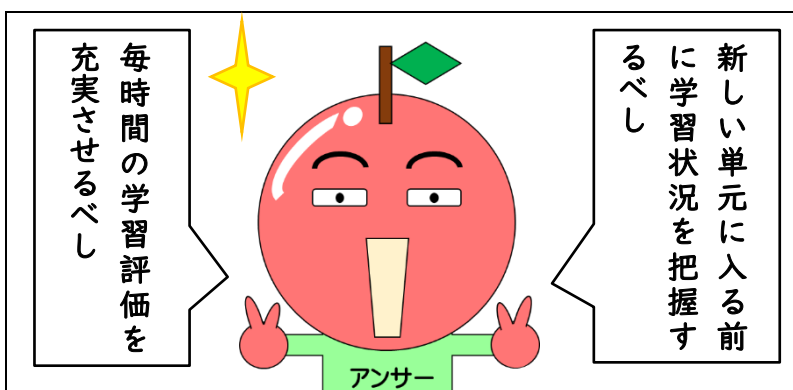
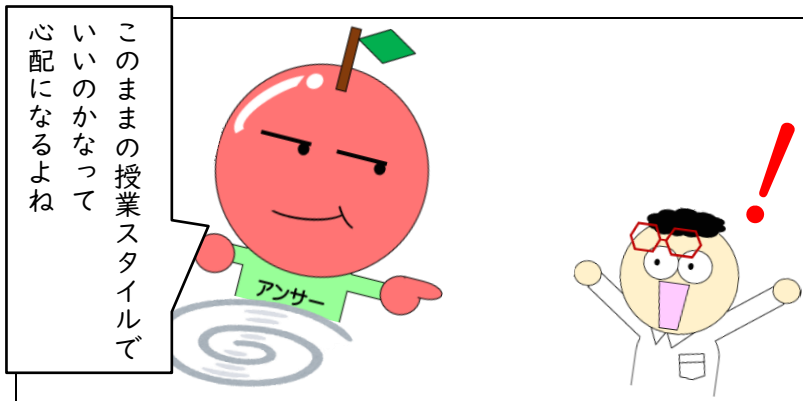
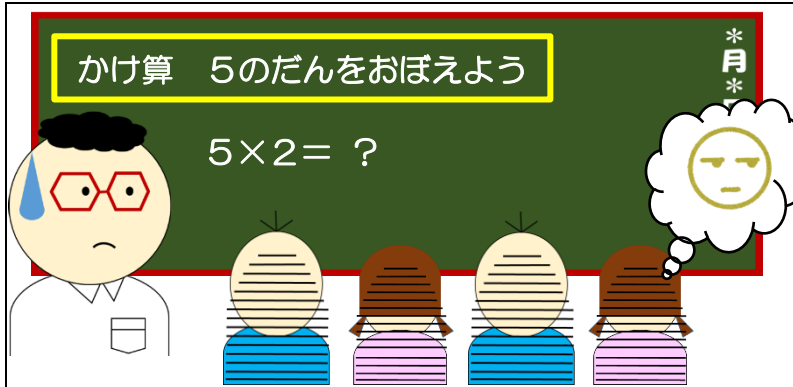


Q3. 各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。



新しい単元に入る前に学習状況を把握する

- 新しい単元に入る前に、関連する学習内容について学習の到達度を把握します。
- 適切に指導内容を精選して、学習のスムーズステップ化を図ります。

年度初めに子供の実態把握を行い、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成しますが、この段階では、各教科における実態を具体的に把握できていない場合があります。そのため、各教科において新しい単元に入る前に、関連する学習内容について「できていること／できそうなこと／まだ難しいこと」を個別に把握しておく（学習の到達度を知る）ことで、個々に的確な目標を立てることができ、具体的な指導内容をその子に合った難易度で計画しやすくなります。難易度は、子供の実態にもよりますが、高すぎず、低すぎず、「ちょっとだけ難しい」程度に設定します。

このような学習のスムーズステップ化のためには、適切に指導内容を精選する必要があります。指導内容の精選の一つとして、子供の障害の状態等に応じて、各教科の基礎的・基本的な事項に重点を置いた指導が挙げられます。ただし、指導の工夫や配慮により履修が可能であるにもかかわらず、障害特性やそれに基づく学習上の困難さを理由に各教科の内容を安易に取り扱わないことは、指導内容の精選とは言えませんので注意しましょう。



毎時間の学習評価を充実させる

- 本時の目標に係る評価基準を設定し、学習評価を充実させることで、子供の実態に合った授業のねらいや課題の難易度を設定できるようになります。

授業における「本時の目標」は、基本的にその時間で達成すべきものです。もし、達成できなかった場合は、「目標が高すぎた」「目標を達成するための手立てや指導が適切ではなかった」というように捉えることができます。つまり、単元の評価規準に照らして、本時の目標に係る評価基準を設定することで、その達成度を具体的に把握することができ、次時におけるねらいや課題の難易度設定の工夫につながられます。

例：本時の目標に係る評価基準の設定（算数）

- ◎（十分満足できる）：既習事項を生かして、自ら***の問題を解くことができる。
- （概ね満足できる）：教師の援助があれば、***の問題を解くことができる。
- △（努力を要する）：既習事項が定着しておらず、教師の援助があっても***の問題を解くことができない。

【文献】茨城県教育研修センター特別支援教育課（2019）：特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】第3版。

よく一緒に読まれている Q

Q16 「[自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいか分かりません。](#)」

[目次に戻る](#)